



しおかぜ通信

八代市立郡築小学校
校長 村嶋 博史



学校教育目標「自ら学ぶ子供」 R8,9,17 No.18

授業力を磨いています

先日、校内授業研究の一環で、相互参観授業（主体的な公開授業）を行いました。今回は、3年理科「音の伝わり方」の授業が公開され、校内研究の視点に沿って、指導改善に向けた意見交換を行いました。

本校では、「子供が学ぶ必要性をもって主体的に学習する授業づくり」を目指し、「郡築小授業改善スタイル」と銘打った指導（主に下の4つの取組）を全教職員で追究し、授業改善に取り組んでいます。

①「単元のめあてと毎時のめあての一本化」

＊このことで単元を貫いた明確な見通しをもたせると共に、学ぶ必要性や問題解決意欲を引き出し、主体的な学習へ導く。

②「一人学びから生じた動機をもとにした協働活動」

＊教師のファシリテートにより、不明、疑問、ズレ、比較などを拾い出し追究させることで、協働学習（話し合い活動など）に必要性をもたせ、主体的な学習へ導く。

③「学びを生かす（つなぐ・広める）振り返り」

＊「まとめ」の活動において、学んだ内容を「知識・技能」として明らかにした後に、「振り返り」の活動において、「何ができたようになったのか」、「何ができなかったのか」を自覚させることで、習得した「知識・技能」を、「活用する力（思考力・判断力・表現力）」や「主体的に学習に取り組む態度」につなぐ。

④「自己指導能力の育成に向けたマジックワードの活用」

＊毎時間の授業を通して、自分自身で学び、成長・発展していく力、いわゆる自ら学ぶ力を引き出す発問などを継続的に行い、自己指導能力（自ら学ぶ力）を育てる。

今後も、全教職員が研究授業や相互参観授業などを通して、積極的に授業を公開し、真摯に授業改善に取り組む、自ら問題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して、自ら行動する子供の育成に尽力します。



【食育】様々な野菜を栽培し、食しています

本校では、昨年度より「食育」の推進にも取り組んでいます。その一環として、各学年で夏野菜や冬野菜を栽培（種まき、水やり、雑草取り、収穫など）し、食する取組を行っています。

9月14日（月）には、3・4年生が合同で冬野菜として「じゃがいも」の種芋の植え付けを行いました。

じゃがいもは、種ではなく種芋を植え付けることに驚いていた子供や、収穫後の食べ方を話しながら楽しそうに植え付けている子供などがいて、印象深い体験になったようでした。

今回は、3・4年合同で行いましたが、夏野菜は、3年がピーマン、4年がスイカを栽培するなど、全学年で違う野菜を栽培し食しました。自分たちで育てた野菜は格別のように、苦手と言っていた子供も笑顔で食する姿が見られました。こういう体験を通して、子供たちは、命や自然とのつながり、食への興味・関心・意欲の向上、感謝の気持ちなどを育てていることと思います。

また、今回は、土の掘り起こしを学校施設用務員が、耕しやうね作り、マルチシートかけを休日返上で担任3人が行いました。こういう支えがあっていることにも感謝の気持ちをもちながら今後も学習に励んでほしいと思います。



【食育】米づくりを支えていただいています

本校では、伝統的に、3・4年生が学校前の田で米づくりを体験しています。そして、今年も、日照りにも地震にも負けずに生育した稲に実がつき、稲穂が頭（こうべ）を垂れています。

この取組は、JA青壮年部の方々に全面的にご協力いただき、毎年行われているものです。子供たちは、6月に田植えを体験し、9月24日には稲刈りを体験する予定です。その後は、収穫した米を使ったおにぎりパーティーも予定されています。

田植えから稲刈りの間、JA青壮年部の方々には、田の水の管理や除草、害虫駆除などにご尽力いただいています。ご自分の農作業や地震後の復旧作業などでご多用の中にも関わらず、このように定期的にご尽力いただいていることに心より感謝します。おかげさまで、子供たちは他ではできない貴重な体験ができています。

